

放送法解釈変更の圧力

内部文書か安倍・高市氏の名

立憲民主党的小西洋議員は3月の参院予算委員会で、番組の「政治的公平性」を定めた放送法の政府解釈をめぐり、安倍政権下の2014～15年に総務省に対する政治的圧力をかけられたとする内部文書を示して追及しました。松本剛明総務相は「発言者の確認

がされていない。精査に「一つの番組のみで中だ」と答弁。高市早苗経済安保担当相は「ねつ造文書だと考えていた」と述べ、岸田文雄首相は「正確性や正当性が定められない文書について、私が申請し上げた」とはない」と語りました。

政府は放送法における「政治的公平性」の解釈について、放送局の「番組全体を見て判断」としていました。松本剛明総務相は「発言者の確認

する「磯崎總理(禪左衛門)」

磯崎氏が解釈変更に

變する以上はあつては

ならない」と批判しました。

松本総務相は文書の

難色を示す総務省側に

「俺と總理が2人で決

めの話」と圧力をかけ、安倍氏が特定の番

組名を挙げて「現在の

放送番組はおかしいも

のもあり、こうした現

状は正すべき」などと

記載され、磯崎陽輔氏

が新解釈を追加するよ

う手順の過程が示さ

れていました。

放送法の解釈を改

めることで、

これまでの解釈を

更したものとは考えて

いない」と答弁。高市

経済安保担当相は、安

倍氏や磯崎氏と放送法

について話したことば

ないと否定し「非常に

悪意を持って作られた

文書だ」と述べました。小西氏から、ねつ

造でなかった場合は間

僚や議員を辞職するか

と問われ、「結構だ

答えました。